

新小山市民病院ニュースレター Shin-oyama City Hospital News letter No.1

<http://www.hospital-oyama.jp/>

〒323-0028 栃木県小山市若木町1-1-5 ☎0285-21-3800 (代表)

病院長挨拶

計画よりも結果を、言葉よりも行動と態度を

昨年度は「小山市民病院だより」を4回発行しました。

本年度からは、さらに充実した病院広報とすべく、新たに「新小山市民病院ニュースレター」として再出発いたします。本院が、この地域の中核病院の名にふさわしい病院になるためには、小山地区医師会の先生方をはじめとして地域の医療関係者に、本院のことをよく知って頂き、そして親しみを持って頂く必要があるからです。

独法化初年度、私たちの経営改革の「3本の矢」は、

- ①医師・看護師の増員、
- ②意識・行動面での業務改革、
- ③意識・行動面での経費節減であります。

戦略的経営システムとして位置づけられている Balanced Scorecard に則って各診療科や各部門は、それぞれの今年度の行動計画を策定しました。これらを推し進める戦略としての“船中八策”に基づくアクションプラン、それを具体的に実現する手段として、毎週開催される病院経営改革推進会議については、既に、昨年度の小山市民病院だよりの中で、皆様にはお伝えしてきました。

私たちに問われているのは、「計画」ではなく、「結果」です。私たちがはじめて認められるのは、「言葉」ではなく、「行動と態度」です。このニュースレターを通じて、新小山市民病院の私たちの「行動と態度」、そして「結果」が今どうなっているかを皆様にお伝えできるようにしたいと考えています。皆様に、新小山市民病院をもっともっと後押ししてもらえるように。



平成25年5月

新小山市民病院 理事長・病院長
島田和幸

主なトピックス

独法化がスタート！



◆除幕式◆

4月1日朝、病院玄関前において、新病院名が書かれた看板の除幕式を開催しました。看板は、市書道連盟副会長の藤沢翠待さんの筆によるものです。



◆理事会◆

同日午前、第1回理事会を開催し、新病院が今後4年間に達成すべく中期計画をはじめ、年度計画等の議案を審議、承認されました。



◆祝賀会◆

同日夜、ご来賓及び関係者のご出席をいただき、小山グランドホテルにおいて、盛大に開催されました。

新任医師からのご挨拶

☆4月1日より 10 名の新しい先生方が着任されました☆

この度、4月1日より脳神経外科常勤医として赴任致しました宮脇 貴裕（たかひろ）と申します。宇都宮市出身で、平成4年に自治医科大学を卒業し、以後栗山村立国保湯西川診療所などの栃木県の僻地医療に従事致しました。平成15年には自治医科大学大学院を卒業し、平成17年から20年までは米国ニューヨークにあるアルバートアインシュタイン医科大学に脳梗塞の基礎研究のため3年間留学する機会をいただきました。帰国後より自治医大救命救急センター、脳神経外科で働かせていただきました。平成23年から25年3月までは真岡にある芳賀赤十字病院で脳神経外科の臨床医をしておりました。脳血管障害の外科治療、特に脳血管バイパス術を専門にしております。自治医科大学はじめ、当院からの患者や芳賀日赤でも脳梗塞予防の手段の一つとして脳血管バイパス術を数十例に施行して参りましたが、術後患者様で脳梗塞を起こした人はおりません。今後も当院で継続して参ります。またくも膜下出血患者様のクリッピング術、慢性硬膜下血腫患者様の穿頭術、一般的に脳神経外科で行われているすべての手術対応が可能です。今後高齢化が進むにつれて、脳神経外科関連の患者数は増加が予想され、小山市に唯一存在する外科手術可能な病院として、可能な限り治療を行う所存ですので、これからよろしくお願い申し上げます。

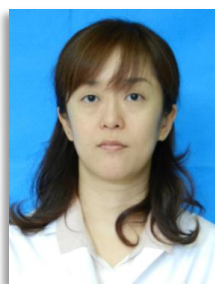
脳神経外科科長

宮脇 貴裕



神経内科医長

中村 優子



平成25年4月1日から新小山市市民病院にまいりました、神経内科の中村です。5年前にも一度お世話になり、今回二度目の勤務です。

よろしくお願いします。

神経内科は以前は2人体制でしたが、今では3人体制になり、脳神経外科医や他の内科・外科とも協力しながら診療を行っています。栃木県は残念ながら脳卒中が多い地域です。脳梗塞の急性期治療はもちろん、外来では再発予防のお力になれるよう、優しく・厳しく取り組んでいきたいと思っております。脳梗塞の多くは生活習慣病が原因になります。地域のかかりつけの先生とも連携を密にしていきたいと考えております。3月まで勤めていた大学病院では、「物忘れ外来」も担当していました。パーキンソン病などの神経変性疾患やてんかん等も診療しています。

近年、発症数時間以内の超急性期といわれる時期の脳梗塞に対して血栓溶解療法がおこなわれています。急に半身が動かなくなった、しゃべれなくなった、という場合はすぐに救急車を呼ぶようにしてください。当院では休日夜間に神経内科医が常駐していないため、時間帯によっては対応できないこともありますが、可能な限り緊急対応し、後遺症を残さないよう取り組みます。

平成25年4月1日より新小山市市民病院 外科に赴任致しました。平成14年、平成20年と今回で3回目の赴任になります。今までとは異なり、独立法人化された新病院への赴任になりましたが島田病院長はじめ全職員の“病院を良い方向に変えて行こう！”との意気込みを肌で感じます。

消化器外科・乳腺を担当します。専門の乳腺ではセンチネルリンパ節生検の導入や最新の化学療法など自治医科大学と同等の医療を担えるようにしたいと思っています。また消化器外科ではフットワークの軽さが大変重要だと思っています。紹介して下さった先生、患者さんの要望に迅速に応えたいと思います。

前回赴任した際にも小山医師会に入会させて頂きましたが今回も入会させて頂き、ご指導・ご鞭撻を賜りたいと思っています。宜しくお願い申し上げます。

外科医長

塩澤 幹雄



内科・総合診療科医師

中野 真宏



この度、平成25年4月1日付けで新小山市市民病院の内科・総合診療科に配属となりました中野真宏と申します。主に健診センターと亜急性期病床を担当することになりました。

新小山市市民病院では、島田病院長・理事長の理念のもと、健診センターに力を入れたいと思います。

また、「亜急性期病床」とは、入院治療後、病状が安定した患者さまに対して、リハビリや退院支援などを行う「在宅復帰支援の為の病床」のことです。急性期の治療が終了した患者さんが対象となり、在宅復帰等へ向けてリハビリ・在宅復帰支援等が必要な方が対象となります。該当病床に入室後、最長60日以内での退院が原則となります。島田病院長とこの病床を積極的に活用し、在宅に向けての手助けになるように頑張ります。

何かと至らない点も多いかと存じますが、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



この度、平成 25 年 4 月 1 日付けで新小山市民病院消化器内科に着任しました平岡友二と申します。

私は東京都出身で、大学卒業後は金融関係の仕事に就き、国内外で医学とはかけ離れた世界に身を置いていましたが、縁あって医学の道に入り、平成 21 年に青森の弘前大学医学部を卒業しました。その後、自治医科大学附属病院での初期臨床研修を経て自治医科大学消化器肝臓内科に入局し、大学病院での勤務を経て新小山市民病院に派遣となりました。

新小山市民病院消化器内科では、消化管や肝臓、胆膵疾患の診断、薬物療法のみならず、悪性疾患や出血性病変、胆石などの内視鏡治療についても積極的に行っており、患者様が安心して地元で治療を完結できるような環境を整えています。もちろん、高度な全身管理が必要となるような劇症肝炎や重症急性膵炎などでは、大学病院などの高次医療機関への橋渡し役も担っています。

自分が医師を目指した動機でもある地域に密着した医療をこの県南の地で実践できることを大変喜ばしく、また意気にも感じています。医療の世界ではまだまだ未熟で、諸先生方にはご迷惑をお掛けする場面も多々あるかと存じますが、この地の医療の発展に少しでも貢献できるよう全力で邁進する所存でございますので、よろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

消化器内科医師

平岡 友二



心臓血管外科医長心得

村岡 新



この度、平成 25 年 4 月 1 日より、新小山市民病院に心臓血管外科が開設され、自治医大心臓血管外科より常勤で派遣されました村岡 新と申します。先だって、昨年 7 月より週 1 回の外来と下肢静脈瘤手術を行っていましたが、常勤 1 名体制となり末梢動脈疾患、腹部大動脈瘤に関しましても当院での治療が可能となりました。末梢動脈疾患の手術にあたっては、術中のカテーテル治療と組み合わせたハイブリット手術も行っており、できる限り低侵襲で満足度の高い治療を心がけております。

ご紹介の先生方のご協力により自治医大での手術件数も増加の一途をたどっており、手術までの機期間が長くなっておりましたが、当院では早期の手術が可能ですので末梢動脈疾患の患者様や腹部大動脈瘤の患者様がいらっしゃいましたらご紹介いただきたく存じます。

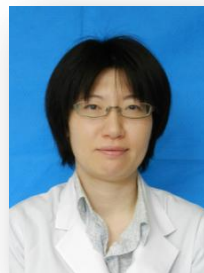
また、その他お困りの心臓血管外科疾患につきましてもいつでもご連絡ください。誠心誠意対応させていただく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成 25 年 4 月 1 日から新小山市民病院神経内科に着任しました安藤綾子と申します。平成 15 年に自治医科大学附属病院で研修を始め、専門は神経内科です。脳血管障害、認知症、パーキンソン病やその類縁疾患、多発性硬化症、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症等々の神経疾患の診療を行って参りました。今年 4 月からは病院も独立行政法人化し名前も変わり、

「患者中心の医療、安全で質の高い医療、地域のための病院、密接な地域医療連携」といった理念のもと新たな出発をしております。私自身も病院が今後益々発展するよう力を尽くしたいと考えております。当院での診療には患者様、御家族にわかりやすいよう丁寧な診療を心がけ、小山市民の皆様の健康の維持に少しでも御役に立てれば幸いです。何かと至らない点多々ございますが、どうぞ御指導御鞭撻の程宜しく御願ひ致します。

神経内科医師

安藤 綾子



小児科医長

野崎 靖之



この度、平成 25 年 4 月 1 日付けで、新小山市民病院の小児科医長を拝命いたしました、野崎靖之です。平成 2 年に鳥取大学を卒業後、自治医科大学小児科学に入局しました。これまで、自治医科大学とちぎ子ども医療センター、栃木県身体障害医療福祉センター（現、栃木リハビリテーションセンター）、国際医療福祉大学、常陸大宮済生会病院などで

診療を行ってまいりました。小児科学、小児神経学、人類遺伝学の専門医を取得しています。新小山市民病院では、五十嵐科長を補佐し、同時期に赴任した今川医師と協力しながら、地域の児童生徒が安心して入院診療を受けることができるように、医療の質と安全の確保につとめていきたいと考えています。

医師会の諸先生方におかれましては、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

※ 今回スペースの関係上、ご紹介できなかった小児科・今川先生と外科・青木先生は、次回ご紹介させていただきます。申し訳ございません。

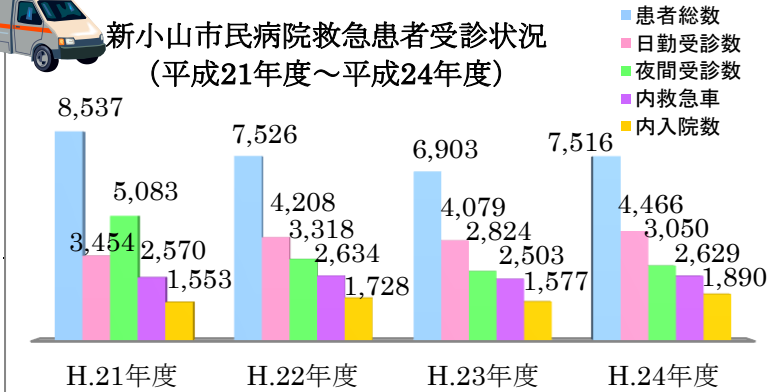


救急の現状報告

(1) 救急受入れ態勢



新小山市市民病院救急患者受診状況
(平成21年度～平成24年度)



救急患者受診状況

新小山市市民病院の救急車受入数は2,629件で、去年比126件増、救急入院患者数は1,890人で、313人増加しました。

さらに救急をスムーズに受け入れるよう、消防隊とも連絡をとりながら、本院の救急患者受け入れ状況をモニターし、改善点を探ります。

医師会の皆様の、忌憚ないご意見、ご助言を歓迎致します。

夜間休日急患センター状況

夜間休日急患センターでは、夜間時間帯に年間8,000～9,000人の一次救急患者が受診しております。担当して下さる医師会の皆様には感謝申し上げます。

私たち新小山市市民病院は、入院を要する二次救急患者を原則断らずに受け入れます。医師会の皆様との二人三脚で地域の救急医療を守ります。

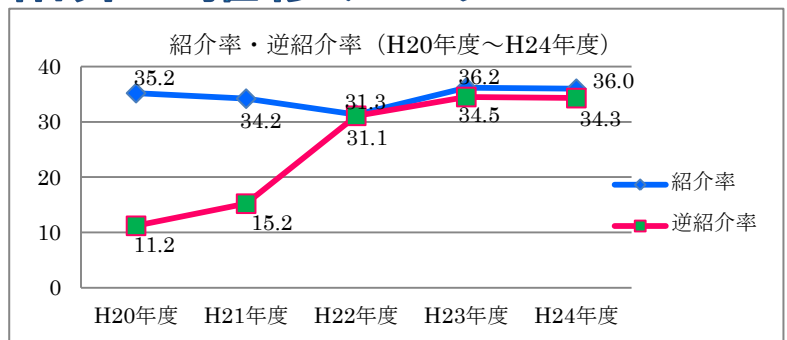
患者受診状況	H.21年度	H.22年度	H.23年度	H.24年度
新小山市民(日勤)	5,083	4,208	4,079	4,466
新小山市民(夜勤)	3,454	3,318	2,824	3,050
夜間休日急患センター	9,260	7,928	7,826	8,359
合 計	17,797	15,454	14,729	15,875

(2) 紹介・逆紹介の推移データ

紹介・逆紹介

新小山市市民病院は、「地域医療支援病院」を目指します。そのためには、もっと紹介率並びに逆紹介率を高めます。(目標 60 %)

医師会の皆様と、スムーズなキャッチボールができるよう、職員の意識や院内体制を変えていきます。医療連携室のスタッフも張り切っていますので、よろしくお願いします。



お知らせ

婦人科を初めて受診される方(以前受診された方で再診予約の無い方を含みます)につきましては、事前に診察予約を取っていただくとともに、紹介状(診療情報提供書)をご持参いただくことと致しました。何卒ご理解、ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

予約受付窓口 産婦人科外来受付 ☎ 0285-21-3844

受付時間 午前 8:30～12:00

午後 1:00～5:00

医療連携相談室

(受付時間 平日 8:30～17:15)

医療連携に関する業務

- ① 紹介患者さんに関する事務
- ② 地域の医療機関からの紹介患者さんの診察や検査予約の受付
- ③ 地域医療機関訪問

患者さん・御家族に関する相談業務

- ④ 「小山市市民病院診療科案内」などの作成と発送
- ① 適切な医療機関や福祉施設などの紹介
- ② 在宅医療や訪問看護に向けての調整
- ③ 医療費などの経済的問題の相談
- ④ 介護保険や身体障害者手帳などの制度の紹介や利用の相談 など

医療連携室 TEL 0285-21-3849 医療相談室 TEL 0285-21-3865
FAX 0285-21-3896(連携室・相談室共通)

※メールでも受付しております。

医療連携相談室 renkei@hospital.oyama.tochigi.jp

